



各 位

NPO放送批評懇談会（担当：中島／福島）

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

◆発表！第2弾 第55回ギャラクシー賞

テレビ、ラジオ、CM作品、制作者、関係者に贈る賞として55年の歴史を誇る「ギャラクシー賞」。

本日、「志賀信夫賞」「マイベストTV賞」「フロンティア賞」を発表いたします。

テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門のノミネート作品の詳細も発表します。

◆ギャラクシー賞贈賞式取材ご案内

贈賞式は5月31日に開催いたします。テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門4部門の大賞、優秀賞、選奨が、贈賞式で発表されるほか、55周年記念賞、志賀信夫賞、テレビ部門個人賞・特別賞・フロンティア賞、ラジオ部門DJパーソナリティ賞、マイベストTV賞の表彰も行われます。

贈賞式をご取材いただき、各部門の受賞作品を報道くださるようお願い申し上げます。

<贈賞式登壇者>

■テレビ、ラジオ、CM、報道活動各部門 入賞のみなさん

■ギャラクシー賞 55周年記念賞 倉本聰 脚本家

■DJパーソナリティ賞 村山仁志 長崎放送「あさカラ！」パーソナリティ

■志賀信夫賞 川端和治 弁護士、BPO放送倫理検証委員会 前委員長

■フロンティア賞 「72時間ホンネテレビ」AbemaTV

■マイベストTV賞 「陸王」TBSテレビ

*ほか、受賞番組ゲストの出席・登壇を調整中

<贈賞式日程>

2018年5月31日（木曜日）15:00～17:15

司会 久米宏 小宮悦子

ギャラクシー賞55周年記念賞

倉本 聡

志賀信夫賞

川端和治

マイベストTV賞 第12回グランプリ

日曜劇場「陸王」

TBSテレビ

テレビ部門

テレビ東京開局記念日 ドラマ特別企画「破獄」

テレビ東京 ドリマックス・テレビジョン

メ〜テレドキュメント「シネマ狂想曲～名古屋映画館革命～」

名古屋テレビ放送

BS1スペシャル「“フェイクニュース”を阻止せよ～真実をめぐる攻防戦～」

日本放送協会 NHKエンタープライズ パオネットワーク

関ジャニ∞クロニクル「TOGAKI HOUSE」

フジテレビジョン

映像17「教育と愛国～教科書でいま何が起きているのか」

毎日放送

NHKスペシャル「戦慄の記録 インパール」

日本放送協会

NHKスペシャル「スクープドキュメント 沖縄と核」

日本放送協会

BS1スペシャル「サハリン残留 家族の歲月」

日本放送協会 NHKエンタープライズ テムジン

ヤメ暴～漂流する暴力団離脱者たち～

CBCテレビ

お宝レコード発掘の旅 あなたの思い出の曲かけさせてください

BS朝日 BEGIN

ETV特集「長すぎた入院 精神医療・知られざる実態」

日本放送協会

テレメンタリー 2018「東京クルド／TOKYO KURDS」

テレビ朝日

金曜ドラマ「アンナチュラル」

TBSテレビ ドリマックス・テレビジョン

100分deメディア論

日本放送協会 NHKエデュケーショナル テレコムスタッフ

特別賞

バカリズム

「架空OL日記」(読売テレビ)の原作・脚本・主演

個人賞

高橋一生

大河ドラマ「おんな城主 直虎」(NHK)「民衆の敵」(フジテレビ)連続テレビ小説「わろてんか」(NHK)の演技

フロンティア賞

72時間ホンネテレビ

AbemaTV

報道活動部門

シリーズ企画「震災・防災・減災」

サンテレビジョン

化学物質過敏症～理解されない病に苦しむ患者たちを伝える6年間の報道～

テレビ金沢

伝える、つなぐ～名張毒ぶどう酒事件報道の40年～

東海テレビ放送

かえる先生のいきもの交遊録

長崎ケーブルメディア

変わる自衛隊 地方から伝えた一連の報道

名古屋テレビ放送

相模原障害者施設殺傷事件後の一連の報道活動

日本放送協会

ラジオ部門

最期への覚悟

CBCラジオ

SBSラジオギャラリー「幸せのカタチ～本当の親子 本物の親子～」

静岡放送

わが人生、島唄にあり～俊造あにいの遺言～

エフエム鹿児島

J-WAVE SELECTION Denka MY JAZZ, MY SOUND

J-WAVE

新里カオリのうららか日曜日～被爆72年「戦後」はいつまで続くのか～

中国放送

旧盆特別番組「How to うちな一嫁」

エフエム沖縄

ラジオと童謡と～「サッチャン」の阪田寛夫が残したもの

朝日放送ラジオ

エフエム徳島・TOKYO FM共同制作 鳴門第九アジア初演100周年記念企画

ドキュメンタリードラマ「歓喜の歌が響く街～第九の里・徳島県鳴門市の奇跡」

エフエム東京 エフエム徳島

DJパーソナリティ賞

村山仁志

「あさカラ」(長崎放送)パーソナリティ

CM部門

岩手日報社 岩手日報「最後だとわかっていたら篇」

岩手日報社 博報堂 博報堂プロダクツ

NTTドコモ 企業 docomo 25周年ムービー「25年後の夏篇」

NTTドコモ NTTアド 博報堂 catch ENOAD AOI Pro.

サントリーホールディングス CRAFT BOSS シリーズ 新しい

風「いいコンビ」「誰もいない」「誰と組む」

サントリーホールディングス シンガタ ワンスカイ 電通 ギークビクチュアズ

資生堂ジャパン 表情プロジェクト シリーズ「表情プロジェクト」

資生堂ジャパン 電通 電通クリエイティブX

住友生命保険 1UP／わんぱく／1UP WOMAN シリーズ「定食で1UP 店主の

証言篇」「少年も1UP 少年の証言篇」「妹が1UP 本人の証言篇」「秋だから1UP 本人

の証言篇」「里帰りで1UP いとこの証言篇」「里帰りで妹も1UP いとこたちの証言篇」

住友生命保険 TUGBOAT 博報堂 東北新社

東海テレビ放送 公共キャンペーン・スポット「この性を生きる。」

東海テレビ放送 電通中部支社 ソーダコミュニケーションズ Zaxx

日清食品ホールディングス カップヌードル シリーズ

HUNGRY DAYS「予告篇」「魔女の宅急便篇」

日清食品ホールディングス 電通 ギークビクチュアズ

日本中央競馬会 GI告知CM 天皇賞(春)／日本ダービー／宝塚記念

／企業／スプリンターズステークス シリーズ「次から次へと」

「おまつり」「てっきり」「十場十色(夏競馬)」「自分ならどうする？」

日本中央競馬会 TUGBOAT 博報堂 スプーン

パイロットコーポレーション フリクション シリーズ「居酒屋篇」「健康診断篇」「社長篇」

パイロットコーポレーション 電通 TTRフェイス

ユーキャン 企業「One Month パバと息子の1ヶ月のふたり暮らし」

ユーキャン 博報堂 博報堂プロダクツ

④味の素 企業「あたしん家のお母さん(母の日限定CM)」

味の素 電通 大日

⑤キリンビール 一番搾り 大阪に乾杯「なにわ篇」

キリンビール 朝日放送ラジオ ビックフェイス BGMサービス

⑥大日本除虫菊 おでかけカトリス／キンチョウの蚊がいなくなるスプレー

／虫よけプレシャワー／虫よけキンチョール／キンチョール 金

鳥少年2017シリーズ「その1」「その2」「その3」「その4」「その5」

大日本除虫菊 電通関西支社 ヒッツコーポレーション

④はラジオCM。

●テレビ部門は上記ノミネート14本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨10本が選出されます。●ラジオ部門は

上記ノミネート8本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨4本が選出されます。●CM部門は上記ノミネート13本から、

大賞1本、優秀賞3本、選奨9本が選出されます。●報道活動部門は上記ノミネート6本から、大賞1本、優秀

賞2本、選奨3本が選出されます。●最終選考の結果は、5月31日(木)開催「第55回ギャラクシー賞贈賞式」

で発表、表彰されます。●テレビ、ラジオのノミネートは放送日順、CMは広告主企業名五十音順、報道活動

は申込社(者)名五十音順に記載。●詳しい結果は6月6日(水)発売の「GALAC」2018年7月号に記載いたしますので、ご覧ください。



放送批評懇談会 第9回志賀信夫賞

よしはる
川端和治 弁護士、BPO（放送倫理・番組向上機構）放送倫理検証委員会 前委員長

志賀信夫賞選考委員会

委員長 音 好宏

選考委員 橋本 隆 藤田真文 藤久ミネ 川喜田 尚 丹羽美之

「志賀信夫賞」は、志賀信夫前理事長の長年にわたる放送批評活動の功績を記念して創設されました。番組制作に留まらず、放送局やプロダクションの経営、業界の新たな仕組み作りなど、幅広い業績を対象に、広く放送文化、放送事業の発展に顕著な貢献をした個人を顕彰することが目的です。

当選考委員会が、慎重かつ多角的な討議を重ねた結果、第9回志賀信夫賞の受賞者に、弁護士でBPO放送倫理検証委員会前委員長の川端和治氏を選出いたしました。

<選評>

川端和治さんは、BPO（放送倫理・番組向上機構）・放送倫理検証委員会が2007年に設置されて以来、10年以上にわたって委員長を務められました。同委員会の設置当時、放送番組のねつ造が社会問題となっており、虚偽放送を行った放送局に対し総務大臣が行政処分を行えるように放送法を改正する動きがありました。それに対して、BPOの機能を強化し、自主・自律的に放送倫理上の問題に対処することによって、放送の社会的信用を回復すべく作られたのが、放送倫理検証委員会でした。

川端さんは、委員長就任当初から同委員会による調査や議論をリードし、NHK、民放連や各放送局が定めた放送基準に照らして、番組のどのような表現に放送倫理上の問題があるのか、意見書（委員会決定）を通じて明らかにしてきました。同時に、個々の番組を検証する中で、放送法や放送基準制定の趣旨は放送局の自由や自律を確保することにあることを、常に意見書で発信されました。

特に、2015年の「クローズアップ現代」に関する意見書で、総務省が放送法を根拠に行った行政指導は、放送法が保障する「自律」を侵害する行為だと指摘したことは大きな社会的反響を呼びました。また、放送局には選挙に関する報道と評論の自由があるとした「2016年の選挙をめぐるテレビ放送についての意見」は、報道現場をおおいに励ますものとなりました。

放送倫理検証委員会の調査・検証の結果、放送倫理違反があると指摘された場合には、放送局は意見書を尊重して再発防止策を考え実行する。川端さんは、このような自主・自律的な放送倫理堅持の仕組みを放送界に定着させることに貢献されました。その功績は、志賀信夫賞の授与にふさわしいものです。



<川端 和治氏プロフィール>

かわばた・よしはる 1968年、東京大学法学部卒業。70年、最高裁判所司法研修所修了・第二東京弁護士会入会。2000～01年、第二東京弁護士会会長・日本弁護士連合会副会長。以後、内閣司法制度改革推進本部法曹養成検討会委員、法務省政策評価懇談会委員、法制審議会委員、大宮法科大学院大学教授、文部科学省中央教育審議会専門委員、法務省政策評価懇談会座長、原子力損害賠償支援機構運営委員会委員長などを歴任。07～18年、BPO（放送倫理・番組向上機構）放送倫理検証委員会委員長。現在、第二東京弁護士会会員、朝日新聞社コンプライアンス委員会委員、BPO放送倫理検証委員会調査顧問、日本年金機構理事（非常勤）、朝日新聞社編集権に関する審議会委員。主著に『雇用関係の法律常識』（日本評論社 編著）、『慰謝料 Q&A』（有斐閣 編著）、『Q&A でわかるネットビジネス法律相談室』（日経 BP 社 共著）、「放送法の番組編集準則及びその解釈の変遷と表現の自由」（『現代日本の法過程』信山社）。

「志賀信夫賞」について

■会の設立から発展に貢献のあった日本の放送批評のパイオニア、志賀信夫（1929-2012）の長年にわたる放送界への功績を記念して、2009年度に創設した。

■本賞は、ギャラクシー賞が受賞対象とする番組制作という枠にとどまらず、広く放送の発展に貢献する大きな業績を成し遂げた個人を表彰するものである。

したがって番組制作だけでなく、放送局やプロダクションの経営、番組制作の支援や放送周辺分野、放送を中心とするメディアに関わる研究や批評活動など、幅広い分野で功績のあった方々を顕彰し、放送の更なる発展に役立てる意図を持つ。

志賀信夫 しが・のぶお / 1929（昭和4）～2012（平成24）。放送評論家。福島県生まれ。53年早稲田大学大学院文学研究科修了。57年同大学講師。60年放送評論家として独立。63年放送批評懇談会の設立に参加、理事、78年理事長。79年共立女子大学講師。81年メディアワークショップ代表理事。85年ビデオ映像文化振興財団理事。90年多摩大学講師。NAB（全米放送事業者協会）東京セッション実行委員会会長、文化庁芸術祭審査委員、NHK演出審議委員等を務める。『デジタル時代のパイオニア』（源流社）、『BS/CS 衛星放送新時代』（電波新聞社）、『映像の先駆者 125人の肖像』（NHK出版）など著書多数。自薦の優れた番組の評論を記録し、関係者の証言を集めるなどした『年間テレビベスト作品』を30年にわたり出版。2003年には、テレビ評論の分野で初めて芸術選奨を受賞。

■志賀信夫賞過去の受賞者 / 肩書は当時

- 第1回 澤田隆治さん（日本映像事業協会会長）
- 第2回 後藤亘さん（エフエム東京取締役相談役、東京メトロポリタンテレビジョン代表取締役会長）
- 第3回 植村伴次郎さん（東北新社最高顧問）
- 第4回 藤田潔さん（ビデオプロモーション名誉会長） / TBS 『調査情報』
- 第5回 石井ふく子さん（テレビプロデューサー）
- 第6回 松尾羊一さん（放送評論家）
- 第7回 山本雅弘さん（毎日放送最高顧問）
- 第8回 西村泰重さん（J:COM初代社長）



視聴者参加型のギャラクシー賞

ギャラクシー賞マイベスト^{テレビ}TV賞 グランプリ決定！

マイベストTV賞 第12回グランプリ

TBSテレビ 日曜劇場「陸王」

視聴者の評価、満足や感動の気持ちを、投票によって形にしたマイベストTV賞。「日曜劇場『陸王』」には、「信念を曲げずに大企業と戦っていく姿に感動した」「ハラハラするストーリーや思いもよらないキャスティングが良かった」「俳優たちがみな熱演していた」という視聴者の賞賛の声が数多く寄せられました。地方の小さな足袋製造会社が、ランニングシューズの開発で会社を再生しようと愚直なまでに前に突き進んでいく姿が、多くの視聴者に感動を与えました。役所広司、山崎賢人、竹内涼真ら俳優陣の熱演も大きく評価されました。

解説

マイベストTV賞に参加したオンライン会員 Gサイトメンバーは、2018年4月10日現在で156名。これに放送批評懇談会の正会員190名が加わった計346名がグランプリ作品の投票にあたった。

グランプリは、2017年4月度から2018年3月度まで投票によって毎月選ばれたノミネート作38本の中から、最大5本までを投票するという方法で決められた。

116票を獲得しグランプリに選ばれたのは、TBSテレビの「日曜劇場『陸王』」。“愚直なまでに夢を実現しようと突き進む人たちの物語がすがすがしい” “久しぶりに毎回楽しみにして見たドラマ” “役所広司が本当に良かった” “山崎賢人はこのドラマでさらに成長した” といったコメントが寄せられ、投票者の幅広い支持を得る結果となった。

第2位は「NHKスペシャル『戦慄の記録 インパール』」。“今までのどの戦争ドキュメンタリーより真実を追求していた” “戦後72年でやっと私たちが知ることができた真実を無駄にはしてはいけない” など、迫真の内容にドキュメンタリーファンの支持を集めた。

第3位はテレビ朝日の「やすらぎの郷」。“倉本聰さん渾身の作品。テレビ界への愛が溢れていた” “年老いた名優たちの演技が素晴らしかった” など、脚本と演技に対する評価が高かった。

今期のマイベストTV賞グランプリは、ベスト10に4本のドキュメンタリーが入り、ドラマ以外の番組にも熱い支持が集まった。

なお、次年度も同様の方式によって年間のグランプリを決定するが、アニメなどレギュラーの番組を「特別投票」でノミネート作に盛り込むなど、新しい試みを実施する予定である。



最終投票結果

第1位	日曜劇場「陸王」(TBSテレビ)	116票
第2位	NHKスペシャル「戦慄の記録 インパール」(NHK)	106票
第3位	やすらぎの郷(テレビ朝日)	100票
第4位	金曜ドラマ「アンナチュラル」(TBSテレビ)	99票
第5位	バイプレイヤーズ～もしも名脇役がテレ東朝ドラで無人島生活したら～(テレビ東京)	68票
第6位	NHKスペシャル「731部隊の真実～エリート医学者と人体実験～」(NHK)	65票
第7位	連続テレビ小説「ひよっこ」(NHK)	63票
第8位	NHKスペシャル「未解決事件File.06 赤報隊事件」<ドキュメンタリー編>(NHK)	50票
第9位	anone(日本テレビ)	48票
第10位	NHKスペシャル「シリーズ『人体』神秘の巨大ネットワーク第1集“腎臓”が寿命を決める」(NHK)	45票

参考

★どんな賞？

「ギャラクシー賞マイベストTV賞」は、放送批評懇談会がNPO(特定非営利活動法人)になったことを節目として創設されました。

視聴者はどんな番組を評価し、どんな番組を愛好しているのでしょうか。放送局や放送の作り手には、視聴者の声は届きにくいのが現実です。とくに、「よかった」「素晴らしかった」といった推奨の声はなかなか形になって表れません。視聴者の評価の声を形にしたい、視聴者の気持ちを放送局や制作者に届けたい——そんな思いから生まれたのが、「ギャラクシー賞マイベストTV賞」です。

★賞の本数、対象年度、賞の仕組み

ギャラクシー賞マイベストTV賞グランプリ 1本

年度(4月～翌年3月) ごとの日本国内で放送されたテレビ番組が対象

審査員は放送批評懇談会正会員とオンライン会員 Gメンバー。選出は放送批評懇談会の会員サイトの投票で行う。毎月の候補番組は放送批評懇談会で制定。会員は毎月1回、候補番組の中から5本まで選んで投票。得票の多かった上位3本が月間ノミネート番組に選出される(投票の経過・結果はWebで発表)。1年間に選出された月間ノミネート番組から、年間のベスト番組5本を選んで投票。もっとも多くの支持を獲得した番組1本が、<ギャラクシー賞マイベストTV賞グランプリ>に選出される。

★オンライン会員 Gメンバーとは？

「放送批評懇談会 オンライン会員 Gメンバー」(以下「Gメンバー」)は、放送批評懇談会の活動に参加する「準会員制度」として、2016年5月にスタートした。会費は年額3000円(半年の場合は2000円)。Gメンバーは「ギャラクシー賞マイベストTV賞」選出に参加し、番組への意見や感想を、テレビ・ラジオの制作者に発信する。

月刊誌「GALAC」電子版を購読できるほか、放送批評懇談会が主催するセミナーなどに特別料金で参加できる特典なども用意されている。



ギャラクシー賞テレビ部門 フロンティア賞

テレビ部門では2015年度、「フロンティア賞」を創設しました。インターネットやスマートフォンなどの普及によって、メディアをめぐる環境は大きく変化しました。過去の成功体験にしがみついているだけでは、テレビの未来はありません。失敗を恐れず、前例のない挑戦をする精神が、いまこそテレビに求められています。「フロンティア賞」は、文字通り、テレビの新境地を開拓し、その未来や可能性を広げる意欲的な取り組みを応援していきます。個々の番組にとどまらず、新たな仕組みづくり、継続的な活動なども幅広く対象として、テレビ部門委員会が選考します。

テレビ部門フロンティア賞

「72時間ホンネテレビ」 AbemaTV

AbemaTVの制作で2017年11月2日から5日まで72時間にわたって生配信されたバラエティ「72時間ホンネテレビ」は、テレビとネットを架橋するインターネットテレビの持つ可能性を強く印象づけました。稲垣吾郎、草彅剛、香取慎吾が出演したことで大いに話題になったこの番組で、テレビの達人である彼ら3人がネットの初心者として多彩な企画を通じてSNSの使い方を会得していくプロセス自体が、テレビとネットの融合を示す新鮮かつスリリングなものでした。またそのような彼らの姿に惹きつけられ、これまでSNSとは縁遠かった多くの一般視聴者が従来のテレビとは異なる番組参加の楽しさに気づかされた点でも画期的な番組になりました。



第55回ギャラクシー賞 テレビ、ラジオ、CM、報道活動各部門 2017年度の傾向など

■テレビ部門■

委員長 出田幸彦

副委員長 岩根彰子

委員 岩城浩幸 太田省一 岡室美奈子 小泉世津子 鈴木誠一郎 西森路代
旗本浩二 福島俊彦 藤岡美玲 藤田真文

2017年度のギャラクシー賞テレビ部門には、全国の放送局や制作会社から上期145本、下期138本の計293本（一般283、フロンティア賞10）の応募がありました。これらの応募作品（一般）と月間賞受賞作品（48本）の計331本について慎重な審査と熱い議論を重ねた結果、14作品の入賞が決定しました。

（『入賞作品一覧参照』）

◆ドキュメンタリーでは、「真実」を伝えることの大切さを訴えた作品が数多く入賞しました。フランスの大手新聞社に密着取材したBS1スペシャル「“フェイクニュース”を阻止せよ～真実をめぐる攻防戦～」(NHK、パオネットワーク)、教科書の採用をめぐる政治的な動きを丹念に追いかけた映像'17「教育と愛国～教科書でいま何が起きているのか」(毎日放送)、膨大な資料と証言で衝撃の新事実を発掘したNHKスペシャル「スクープドキュメント 沖縄と核」(NHK)、日本の精神医療と人権侵害の実態に迫ったETV特集「長すぎた入院 精神医療・知られざる実態」(NHK)の4本です。また太平洋戦争を現代の視点から鋭く検証したNHKスペシャル「戦慄の記録 インパール」(NHK)とBS1スペシャル「サハリン残留 家族の歳月」(NHK、NHKエンタープライズ、テムジン)も入賞。今日的なテーマを具体的な事例で丁寧掘り下げたのは、「ヤメ暴～漂流する暴力団離脱者たち～」(CBCテレビ)とテレメンタリー2018「東京クルド／TOKYO KURDS」(テレビ朝日)です。ユニークな人間の生きざまを描いたメ～テレドキュメント「シネマ狂想曲～名古屋映画館革命～」(名古屋テレビ)も異色の作品として入賞しました。◆ドラマでは社会派やヒューマンな作品に高い評価が集まりました。その中から、自由とは何かを根源的に問いかけたドラマ特別企画「破獄」(テレビ東京、ドリマックス・テレビジョン)と、今日的な社会問題を織り込みながら生き続けることの意味を問うた金曜ドラマ「アンナチュラル」(TBSテレビ、ドリマックス・テレビジョン)が選ばれました。◆バラエティでは、本格的なアイドルバラエティの王道を受け継いだ関ジャニ∞クロニクル「TOGAKI HOUSE」(フジテレビ)と、音楽の力で青春時代の思い出を綴ったユニークな音楽番組「お宝レコード発掘の旅 あなたの思い出の曲かけさせてください」(BS朝日、BEGIN)が入賞。また「100分 de メディア論」(NHK、NHKエデュケーショナル、テレコムスタッフ)は、識者がメディア論の古典を読み解くことで現在のマスメディアと日本社会の問題点を鋭い視点であぶり出した作品です。 (出田幸彦)



テレビ部門特別賞

バカリズム

「架空OL日記」の（読売テレビ）の原作・脚本・主演

地上波、BS、CS、ネット配信とレギュラーを10本以上抱えるバカリズム。「笑×演」や「バカリズムの30分ワンカット紀行」など、新鮮な企画を実現化したいときに真っ先に名前が挙がる人ではないでしょうか。そんな多忙な中、取り組んでいるのが脚本の仕事。2014年に「素敵な選TAXI」で連ドラ脚本家デビューしてからは、コンスタントに脚本を書き続け、「架空OL日記」では、OLたちの淡々とした日常を描きながらも、バカリズム本人がそのOLの中のひとりとして自然にふるまっているという、リアルなのにファンタジックな作品を完成させました。そのなにげない会話は視聴者に「あるある」と共感され、その世界の住人でいたいような独特の感覚をもたらしました。

<バカリズムプロフィール>

ばかりずむ 本名・升野英知（ますの・ひでとも）。1975年11月28日生まれ。福岡県田川市出身。A型。身長165cm。特技はイラスト。97年日本映画学校俳優科卒業。95年「バカリズム」結成、2005年12月よりピン芸人で活動。テレビを中心に活動するかたわら、定期的に単独ライブを行い、ライブチケットは即完売する人気。ナレーション、俳優、脚本、イラスト、書籍など多方面で活躍中。現在のレギュラー番組は、「ビットワールド」（Eテレ）、「有吉反省会」「バズリズム02」「女心がわかる男 わからない男」「アイキャラ」（日本テレビ）、「家事ヤロウ!!!」「EXD44」（テレビ朝日）、「青春高校3年C組」（テレビ東京）、「バカリズムの大人のたしなみズム」（BS日テレ）、「バカリズムの30分ワンカット紀行」（BSジャパン）。過去のドラマに「ウレロ」シリーズ（テレビ東京）、「住住」（脚本・出演／日本テレビ）、「下町ロケット」（TBSテレビ）、「素敵な選TAXI」（脚本・出演／関西テレビ）、「ほんとにあった怖い話」（フジテレビ）、「かもしれない女優たち」（脚本・出演／フジテレビ）、「黒い十人の女」（脚本／読売テレビ）など。映画に『バカリズム THE MOVIE』（監督・脚本・主演）、『チーム・バチスタ FINAL ケルベロスの肖像』。主な著書に『トツギーノ』（日本文芸社）、『架空OL日記1.2』（小学館文庫）、『都道府県の持ちかた』『バカリズムのエロリズム論』（ポプラ社）、小林賢太郎との共著『大喜利』シリーズなど。18年、アニメ映画『劇場版 ひらがな男子 ～序～』脚本。原作・脚本・主演の「架空OL日記」で第36回向田邦子賞。



テレビ部門個人賞

高橋一生

大河ドラマ「おんな城主 直虎」(NHK)、「民衆の敵」(フジテレビ)、連続テレビ小説「わろてんか」(NHK)の演技

大河ドラマ「おんな城主 直虎」、朝ドラ「わろてんか」、月9「民衆の敵」とそれぞれ個性のかつ歴史あるドラマ枠の作品で、物語の要となる重要な役柄を魅力的に演じました。

「直虎」では、本心を隠して陰から主人公を支え続けるキャラクターを巧みに演じ、物語の前半を牽引。特にわずかな表情の変化で心情を伝える繊細な演技は見事でした。また、磔にされ心臓を槍で突かれながらも最期まで“演技”をし続けた処刑シーンも強く印象に残ります。「わろてんか」では柔らかな物腰と芯の強さを兼ね備えた紳士役を好演し、一方「民衆の敵」では、ヒロインの敵なのか味方なのか最後までわからないグレーな役どころでドラマに陰影を与えました。どの作品でも、彼が演じたキャラクターが物語に色気を加えていたのも印象的です。

演技だけにとどまらず、CMでは10変化のコスプレやキレのいいヲタ芸なども披露。多彩な魅力でテレビ界に新風を吹き込んだ実績を賞します。

<高橋一生 プロフィール>

たかはし・いっせい 1980年12月9日生まれ。東京都出身。TV、映画、舞台と幅広く活躍。CM出演も多数。舞台『4four』(2012年)で演技が高く評価され「第67回文化庁芸術祭賞演劇部門芸術祭新人賞」を受賞。18年エランドール新人賞受賞。近年の主な出演作に、映画16年『シン・ゴジラ』(総監督：庵野秀明)、17年『3月のライオン前編/後編』(監督：大友啓史)、『THE LIMIT OF SLEEPING BEAUTY』(同：二宮健)、18年『blank13』(同：齊藤工)、『嘘を愛する女』(同：中江和仁)など。ドラマでは13年「Woman」(日本テレビ)、14年大河ドラマ「軍師官兵衛」(NHK)、15年「だから荒野」(NHK)、「民王」(テレビ朝日)、16年「僕のヤバイ妻」(フジテレビ)、17年「カルテット」(TBSテレビ)、大河ドラマ「おんな城主 直虎」(NHK)、「民衆の敵」(フジテレビ)、連続テレビ小説「わろてんか」(NHK)など多数。今後の公開待機作に映画18年『空飛ぶタイヤ』(監督：本木克英)、『億男』(同：大友啓史)、19年『九月の恋と出会うまで』(同：山本透)、『引っ越し大名(仮題)』(同：犬童一心)がある。



■ラジオ部門■

委員長 橋本 隆

副委員長 五井千鶴子

委員 伊藤友治 鶴飼一嘉 大谷知史 北郷裕美 黄 莉香 小林浩子 仲宇佐ゆり
永須智之 中村亮平 三原 治

上期50本、下期42本、計92本で昨年より20本増。今年も沢山の応募に感謝いたします。

FM局、コミュニティ局の応募が少しずつですが増えております。コミュニティ局の番組は30分程度の小品が多いのですが、地元に着した独特の魅力を持つ内容でした。これからも注目していきたいと思えます。

<入賞番組> (放送日順)

- ◆「最期への覚悟」(CBCラジオ)。最期の時、「死」をどう迎えるかがテーマ。団塊の世代が75歳になる8年後に迫った、いわゆる2025年問題。国は病院ではなく在宅治療政策を進めている。果たして、人は無事に在宅で死ぬるかを一人の女性医師の活動を追う視点から問うた。
- ◆SBSラジオギャラリー「幸せのカタチ～本当の親子 本物の親子」(静岡放送)。テーマは子どもの貧困。様々な理由で親と離れた、あるいは捨てられた子どもが増えている。愛情も知らず、教育を受けていないので文字も知らない子どもたち。解決策のひとつ、里親制度の活動を取り上げた。
- ◆「わが人生、島唄にあり～俊造あにいの遺言～」(エフエム鹿児島)。昨年82歳で亡くなった築地俊造を取り上げ、奄美の島唄の普及と伝承に捧げた彼の一生をまとめた。島唄の美しさにホッとする1時間。
- ◆「J-WAVE SELECTION Denka MY JAZZ、MY SOUND」(J-WAVE)。ご存じ盛岡の有名なジャズ喫茶「ベイシー」から、オーナーの菅原氏のインタビューと店内に流れるジャズをそのまま聞かせた中継番組としても秀逸。ジャズの魅力一杯の好番組。
- ◆「新里カオリのうららか日曜日～被爆72年『戦後』はいつまで続くのか～」(中国放送)。テーマは被爆と平和。昨年も8月6日に中国放送が強いメッセージの番組を生ワイドで放送した。新里かおりとアーサー・ビナードのレポートが強く心を打つ。爆心地を歩きながら、昔そこで生活していた方の語る証言は多くのことを考えさせた。「戦後」はいつまで続くのか、取り上げたテーマは重い。
- ◆旧盆特別番組「How to うちな一嫁」(エフエム沖縄)。思わず笑みもこぼれる楽しい番組。お正月以上に大盛り上がりを見せる沖縄の旧盆、主役はお嫁さん。その活躍、奮闘を楽しく描いた。
- ◆「ラジオと童謡と～『サっちゃん』の阪田寛夫が残したもの」(朝日放送ラジオ)。朝日放送開局の頃、在籍していた作家・坂田寛夫の作った童謡の名曲「サっちゃん」誕生の事情を探った。当時貴重な番組構成要素であった童謡とラジオの関係。放送の歴史資料としても貴重だ。
- ◆「エフエム徳島・TOKYO FM共同制作 鳴門第九アジア初演100周年記念企画 ドキュメンタリードラマ「歓喜の歌が響く街～第九の里・徳島県鳴門市の奇跡」(エフエム東京、エフエム徳島)。今年「第九」が1918年に鳴門市で初演されてから丁度100年。当時収容されていたドイツ軍捕虜によって演奏された。その史実を長く伝えようと小学生がドイツ語を覚えながら演奏している姿などを入れ、ドラマに仕上げた。

(橋本 隆)



ラジオ部門DJパーソナリティ賞

村山仁志

「あさカラ！」(長崎放送) パーソナリティ

肩の力を抜いて自然体で立ち、穏やかにテンポよく話す声が魅力的です。アナウンサーの基本を外さずに正確な言葉を選び、きれいな日本語での放送は、聴取者第一に徹し、ラジオと一緒に時間を過ごすことの楽しさを伝えています。1999年から約20年、番組はいくつか変わりましたが、途切れることなく生ワイド番組のメインパーソナリティを続けてきた経験は伊達ではありません。昨年8月9日原爆の日に放送された「あさカラ！」で、爆心地、平和公園を歩いて回りながら、そこで出会った人から原爆について得た証言をレポートした番組は、今、長崎県民そして日本が抱えている問題を鋭く提起し、生ワイド番組として充実した内容で多くのラジオ番組制作者にお手本となる番組でした。地方局にあって正統派の生ワイド番組を担当し続けている点を高く評価します。これからも長崎から貴重なメッセージの発信を続けることを期待しております。

<村山仁志 プロフィール>

むらやま・ひとし 1968年、長崎県生まれ。NBC長崎放送アナウンサー。日本大学芸術学部放送学科卒業。92年入社。94年からラジオ佐賀で記者兼アナウンサー。99年から長崎本社でラジオの昼ワイド番組「午後が大好き!もぎたてラジオ」「ラジDONサタデー 奥様と村山のドラマチックな昼下がり」「満腹ワイド ラジDONぶり」「情報コンビニ 午後GO!!」等のメインパーソナリティ。2011年度JNNアノンシスト賞(ラジオフリートーク部門)全国最優秀賞ほか受賞。小説家として09年にデビュー作『パラダイスロスト』(筆名:三井雷太)で第一回メガミノベル大賞(学研)金賞受賞。ラジオ局が舞台のファンタジー小説『午前0時のラジオ局』(PHP)は17年に文化放送でラジオドラマ化。著書6冊中5冊が台湾・韓国で翻訳出版。宝塚のミュージカルに原作・脚本を提供。趣味は模型制作・イラスト。佳山明生氏のアルバムジャケットに似顔絵を提供。現在、NBCラジオ「あさカラ!」の月・火・水を担当。



■ CM部門 ■

委員長 稗田政憲

副委員長 松山珠美

委員 泉綾子 国枝智樹 汲田亜紀子 鈴木武人 鈴木ゆかり 野上信子 服部千恵子 星野裕
本庄雅之 横川紀子 若尾一彦

CM部門は、今回からラジオCMにも対象を広げました。テレビCMと同じ土俵でのガチンコ選考にも拘らずラジオCMは131本の応募がありました。テレビCMと合わせた総応募数は321本で、近年の応募数を大きく上回り最終選考会は激戦となりました。投票と討議を重ねた結果、次の13本を入賞作品と決定しました。

テレビCM

◆岩手日報社「最後だとわかっていたなら篇」は、「震災」を勝手に終わらせないという岩手日報の決意が静かに強く心に響いた作品でした。◆NTTドコモ「25年後の夏篇」は、若い男女の出会いから25年の歩みをドラマ仕立てに描き、機種の変遷など細部に行き渡った時代の再現が秀逸でした。◆サントリー CRAFT BOSS シリーズは、世間に吹き始めた働き方の軽やかな変化を上司の戸惑いとともにも絶妙に描きました。◆資生堂ジャパンの表情プロジェクトシリーズは、女性のインサイトを基に商品特性をエモーショナルに表現したスケール豊かな完成度の高いCMでした。◆住友生命保険の1UPシリーズは、ドキュメンタリー風映像に本人や周囲の人々の証言を組み合わせる独特の構成が知的な笑いを誘いました。◆東海テレビの公共キャンペーン「この性を生きる。」は、LGBTをテーマに悩みながら生きる人達と真摯に向き合い広告として昇華させました。◆日清食品のカップヌードル HUNGRY DAYS シリーズ2篇は、誰もが知る主人公を現代に生きる新たなヒロインとして独創的な映像美で描き切った素敵な作品でした。◆日本中央競馬会のGI告知CMシリーズ5篇は、競馬の素朴な疑問を若い男女4人のコミカルなやり取りで描いた作品でした。◆パイロットコーポレーションのフリクションシリーズは、消せるという商品特性を生かし、ちょっとした書き間違えから生じるオモシロ現象を描きクスッと笑える好感の持てるCMでした。◆ユーキャンの「パパと息子の1ヶ月のふたり暮らし」は、育児初心者のパパと反抗期の息子をママが書いたテキストが助ける心温まるCMでした。

ラジオCM

◆味の素「あたしん家のお母さん」は、一度は母親から言われたことがあるようなことばが、かわいらしい女の子の声で次々と流れ、映像がなくてもシーンを想像できる心温まるCMでした。◆麒麟ビール一番搾りの「大阪に乾杯 なにわ篇」は、色々な単語の上に「なにわの」をつけるだけでイメージが変わるのをキレの良い掛け合いとテンポで引き込ませた作品でした。◆大日本除虫菊「金鳥少年2017シリーズ」は、思春期ならではの甘酸っぱいエピソードを商品の特長とからめて展開、独自の空気感がシリーズの魅力となっている作品でした。

(稗田政憲)



■報道活動部門■

委員長 丹羽美之

副委員長 市村 元

委員 小川邦雄 河野尚行 櫻井 要 田中早苗 谷岡理香 藤久ミネ 古川柳子 矢後政典

ギャラクシー賞報道活動部門は、持続的な調査報道、キャンペーン報道、他メディアと連動した新しい展開など、「番組」の枠組みでは捉えきれない一連の「報道活動」を丸ごと評価することを目的としています。放送批評懇談会の創立40周年に当たる2002年度に創設され、今年で16回目を迎えました。

本年度の同部門には、上期9本、下期21本、計30本の応募がありました。NHKと民放のキー局・系列局のほか、独立局、ケーブルテレビ、ラジオなど、全国各地から多種多様な取り組みが寄せられました。選考会で厳正な議論を重ね、最終的に、上期3本、下期7本に絞られた入賞候補作の中から、6本の入賞作を選出しました。

◆サンテレビジョン「シリーズ企画『震災・防災・減災』」。阪神淡路大震災が発生した火曜日に毎週放送している震災特集は、この23年間で1000回を超えた。制作者の世代交代が進むなかで、被災地神戸の地元メディアとして震災の教訓を継承し、後世に伝え続けるその継続力が高く評価された。

◆テレビ金沢「化学物質過敏症～理解されない病に苦しむ患者たちを伝える6年間の報道～」。柔軟剤、シャンプー、農薬、シックハウスなど、化学物質に囲まれた現代生活に警鐘を鳴らし続ける。広告収入に頼る民放では、敬遠されがちなテーマであり、困難な取材に挑み続けるその姿勢に賞賛が集まった。

◆東海テレビ「伝える、つなぐ～名張毒ぶどう酒事件報道の40年～」。3人の取材者がバトンをリレーし、冤罪を問い続ける息の長い報道活動である。その過程で、日本の司法制度そのものへと問題意識を広げ、ドラマや映画や書籍へと活動の幅を展開していったことも高く評価された。

◆長崎ケーブルメディア「かえる先生のいきもの交遊録」。元高校教員をガイド役にして、カエル、チョウ、リスなど、生き物の世界を楽しく紹介するワイド番組内の人気コーナーである。身近なところに住む生き物たちの生態を通して、人間と自然の関係を見つめ直すユニークな報道活動である。

◆名古屋テレビ放送「変わる自衛隊 地方から伝えた一連の報道」。2015年の安保法案成立を受けて、自衛隊がどう変わるかを現場取材から浮き彫りにした優れた調査報道である。特に「防衛フェリー」は、自衛隊と米軍の一体化が進み、民間船と民間人の活用が水面下で進みつつある実態を明らかにした。

◆日本放送協会「相模原障害者施設殺傷事件後の一連の報道活動」。事件直後の生放送による緊急特集にはじまり、障害者を取り巻く実態を取材したドキュメント、本音で語り合うスタジオ討論、独自のウェブ記事、ミニ動画など、多角的な手法で共生社会へのメッセージを発信し続けたことが高く評価された。

(丹羽美之)



ギャラクシー賞の概要

◆歴史および概要◆

1963年、放送草創期のこの時期に、テレビとラジオの可能性、影響力に着目し、その発展には必ず“批評”の力が必要であると考えた評論家、研究者、ジャーナリスト、作家らの有志によって創設された放送批評懇談会。ギャラクシー賞は、志ある番組を掘り起こし、制作者たちの番組作りへの情熱に光を当てて顕彰することで現場を鼓舞し、番組の向上・発展を促すことを目的に誕生した。民間の自主的意思を基盤として創設された放送賞の第1号である。表彰は1年単位。

「ギャラクシー」とは、天の川、銀河という訳のほか、佳人・才子の華やかな群れという意味を持つ。放送界にきらめく才能を表すのにふさわしいものとして、放送批評懇談会設立の核となった渋谷秀雄、内村直也、梅田晴夫そして初代のトロフィーをデザインしたガラス作家・岩田糸子らによって賞の名に選ばれた。ギャラクシー賞は第50回（2013年）を記念してトロフィーを一新。松永真デザインの「バードマン」が新しい賞のシンボルとなった。

◆賞の特徴◆

ギャラクシー賞創設時には、すでにいくつかの放送賞が存在したが、その多くは「コンクール用に盛装を凝らしたものを対象にした記念行事」（故・白井隆二）だった。白井らは、テレビやラジオが日常に根ざした媒体であることを強く意識し、年間を通じてテレビを視聴しラジオを聴いて番組を批評することを賞の大前提に掲げた。その志は現在まで貫かれ、放送批評懇談会正会員の自主的な視聴活動が賞の土台となっている。

テレビ部門では、審査を担当する選奨委員により月評会（毎月）が開催され、月間賞が選出されている。ラジオ部門も月例会を持ち番組を論じ合う。これらの内容は毎月、月刊誌「GALAC／ぎやらく」に掲載される。こうした活動により、“放送の現在に向き合う賞”として独自の地歩を固めている。

◆審査と表彰◆

時代性に優れ、ジャーナリスティックな感覚を持ちえていること、かつ作品として普遍的な力量を備えていることの二点が選考の柱。

放送批評懇談会正会員によって組織する選奨事業委員会が審査を担当。審査は、年2回（上期・下期）、エントリー作品を受け付けて行う。上期・下期で選出された作品を対象に年間の最終選考が行われ、各賞を決定する。

表彰式は、毎年5月下旬～6月初旬に行われる。受賞者には、トロフィーと表彰状が授与される。



◆賞の内容◆

【テレビ部門】大賞1、優秀賞3、選奨10、特別賞1、個人賞1、フロンティア賞1

【ラジオ部門】大賞1、優秀賞3、選奨4、個人賞またはDJパーソナリティ賞1

【CM部門】大賞1、優秀賞3、選奨9

【報道活動部門】大賞1、優秀賞2、選奨3

【その他】志賀信夫賞1、マイベストTV賞グランプリ1

＜志賀信夫賞＞

放送批評懇談会の発展に寄与した放送評論家・志賀信夫の功績をたたえるために、2009年度（第47回）創設。広く放送界の発展、放送文化の向上に貢献した人物等を表彰する。放送批評懇談会正会員の推薦を元に選出する。

＜マイベストTV賞＞

視聴者の参加により選ばれるテレビ番組賞で、2006年度（第44回）創設。放送批評懇談会選奨事業委員会が候補番組を選定し、これを毎月、放送批評懇談会正会員と「Gメンバー」（視聴者によって構成される放送批評懇談会のオンライン会員）が投票して選出される。年間で最も得票を得たものが「マイベストTV賞グランプリ」としてギャラクシー賞と共に表彰される。

上記のほか、周年には記念賞を設ける場合がある。

◆沿革◆

1963年度（表彰は1964年）ギャラクシー賞誕生、第1回。

第27回、ラジオ部門独立。

第31回、ラジオ部門にDJパーソナリティ賞新設。

第33回、CM部門設立。

第40回、報道活動部門設立。

第44回、視聴者が選考に参加する「マイベストTV賞」を新設。

第47回、「志賀信夫賞」を新設。

第53回、テレビ部門がテレビの新しいチャレンジを応援する「フロンティア賞」を新設。



第55回ギャラクシー賞 贈賞式 取材要領

2018年5月31日（木曜日）

セルリアンタワー東急ホテル「ボールルーム」

取材受付13:45、取材開場14:00、開演15:00

取材要領

- ギャラクシー賞贈賞式の取材をご希望の方は、申込書に必要事項をお書き込みのうえ、ファクスでお申し込みください。事前にお申込のない取材はお受けできません。
- スペースの都合により1紙/誌につき1人（カメラ別）、1番組につき1クルーでお願いします。
- 撮影希望者（スチール、ムービーとも）は、13:45までに取材受付にご集合ください。（カメラ位置は抽選で決定。ただし申込多数の場合は、抽選によって会場にお入りいただけない場合があります。ご了承ください。）
- 掲載媒体は、公共性の認められるものに限らせていただきます。

第55回ギャラクシー賞取材申込書 Fax. 03-5379-5510

ギャラクシー賞贈賞式の取材を申し込みます。

媒体名	
番組名と放送局名	
会社名	
住所 〒	
担当者	Tel.
Email	Fax.
取材人数	スチールカメラ あり なし
	テレビカメラ あり なし
媒体種類	テレビ ラジオ 新聞 雑誌 社内報 ネット SNS その他（ ）
取材内容	写真 動画 記事 その他（ ）
備考	